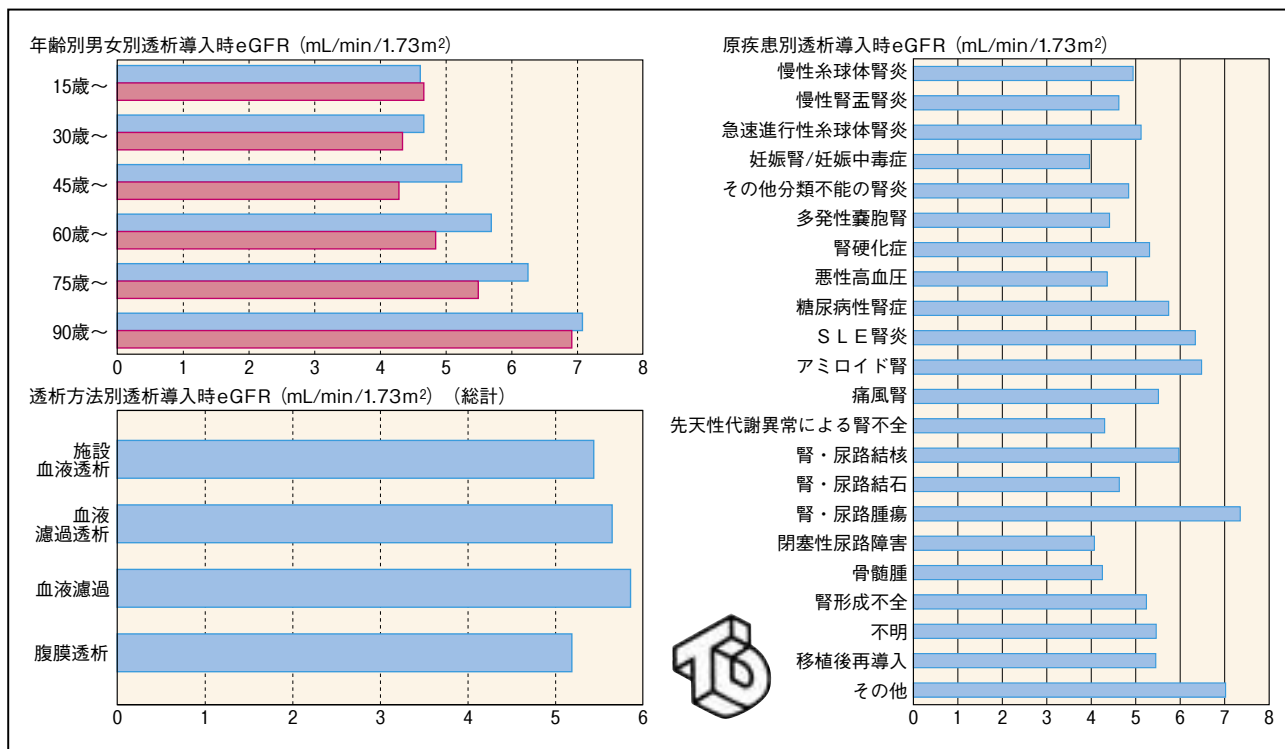


## 5) 新規透析導入患者の現状

### (4) 透析導入時糸球体濾過値 (eGFR mL/min/1.73m<sup>2</sup>) (図表45)



年齢	平均eGFR (mL/min/1.73m <sup>2</sup> )		
	男性	女性	総計
15歳～	4.61	4.66	4.62
30歳～	4.66	4.35	4.57
45歳～	5.25	4.28	4.95
60歳～	5.69	4.85	5.40
75歳～	6.26	5.50	5.94
90歳～	7.08	6.91	6.99
合計	5.69	5.01	5.44

治療方法	平均eGFR (mL/min/1.73m <sup>2</sup> )		
	男性	女性	総計
施設血液透析	5.69	4.98	5.44
血液濾過透析	5.65	5.66	5.65
血液濾過	5.91	5.74	5.86
腹膜透析	5.44	4.75	5.19

原疾患	平均eGFR (mL/min/1.73m <sup>2</sup> )
慢性糸球体腎炎	4.94
慢性腎盂腎炎	4.62
急速進行性糸球体腎炎	5.12
妊娠腎/妊娠中毒症	3.96
その他分類不能の腎炎	4.84
多発性嚢胞腎	4.41
腎硬化症	5.31
悪性高血圧	4.36
糖尿病性腎症	5.74
SLE腎炎	6.34
アミロイド腎	6.48
痛風腎	5.51
先天性代謝異常による腎不全	4.30
腎・尿路結核	5.97
腎・尿路結石	4.63
腎・尿路腫瘍	7.35
閉塞性尿路障害	4.07
骨髄腫	4.25
腎形成不全	5.24
不明	5.46
移植後再導入	5.45
その他	7.02

患者調査による集計

#### 解説

推算糸球体濾過値 (eGFR mL/min/1.73m<sup>2</sup>) で示した透析導入時腎機能は、昨年と同様、MDRD式に日本人係数をかけたもの (Clin Exp Nephrol 2007 Mar; 11 (1): 41-50.) で、血清クレアチニン測定がヤッフエ法では、 $eGFR(\text{男}) = 186 \times (\text{初回透析前クレアチニン}^{-1.154}) \times (\text{透析導入時年齢}^{-0.203}) \times 0.881$ 、酵素法では $eGFR(\text{男}) = 175 \times (\text{初回透析前クレアチニン}^{-1.154}) \times (\text{透析導入時年齢}^{-0.203}) \times 0.741$ とし、それぞれ女性の場合には0.742を乗じ算出した。eGFRでの比較では、昨年と同様、女性の方が血清クレアチニン濃度が低値であるにも関わらず、女性の方が低値であった。また年齢別では15歳未満のeGFRはMDRD式での推算は不可能であり、省略した。15歳以上の患者群での検討では、血清クレアチニン値と若干異なり、男性は、加齢とともにeGFR高値での透析導入が行われたが、女性では45歳～60歳未満の年代で最も透析導入時腎機能が低く、30歳～45歳未満、15歳～30歳未満がこれに次いでいた。治療法別では、血清クレアチニンでみた腎機能と同様、原疾患別でもeGFRは血清クレアチニン値と同様の傾向であった。